

普段何気なく車を走らせていると、道路に並行して小道があつたり、使われていないトンネルや橋脚を目にする事はありませんか。

そう、そこは昔汽車が走っていた線路の跡、廃線跡なのです。(※廃線跡であることが多いと思います。)

私みたいな鉄道好きにとっては、目をつむると汽車が走っている情景が汽笛の音とともに蘇って浮かんできます。

廃線跡がある一方で、小樽、岩見沢など札幌近郊にお住まいの方は、毎日の通勤・通学、買い物などでJRの電車を利用されている方も多いいらっしゃると思います。

普段、特に札幌駅まで乗られている方々の中には、ボートと車窓の景色を眺めたり、スマホの画面を眺めながら、ゆらゆら電車に揺られているだけという方もいらっしゃるかもしれません。

でも実はその線路、北海道で一番早くにできた古い線路だなんて考えたことがありますか?

中々ないのではないかと思います。

日本で一番最初に鉄道が走ったのが明治5年(1872年)、東京・新橋(現汐留)－横浜(現桜木町)間、次いで明治7年(1874年)に大阪－神戸間、そしてなんと3番目が北海道だったのです。

それが小樽の手宮と三笠の幌内を結んでいた幌内鉄道なのです。

現在、幌内鉄道の終着駅であった幌内駅の跡地は三笠鉄道村になっており、今回はその中にある三笠鉄道記念館を訪ねてきました。

三笠鉄道記念館は、三笠振興開発株式会社が管理・運営しており、同社の代表取締役である三宅博文社長から話を伺いすることができました。(写真1参照)

幌内鉄道は、北海道開拓使により官営で敷設され、明治13年(1880年)11月、手宮－札幌間で営業運転を開始。明治15年(1882年)11月に札幌－幌内間が開通し、手宮－幌内炭山間約91.2キロメートルが全通となりました。当時国内では最長の路線でした。(写真2参照)

時間的にはどのくらいかかったのかといふと、札幌－幌内間約55キロメートルを約3時間かけて走っていたそうです。そもそもそんなにスピードが出なかつたのと、途中石炭と水を足さなければならず、駅の停車も約15分くらい時間を要したとのことでした。(写真3, 4参照)

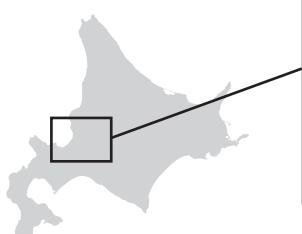
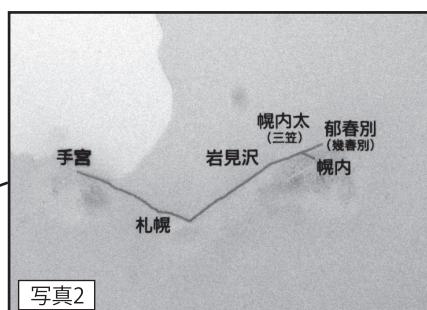


写真1

三笠振興開発株式会社 三宅博文代表取締役



幌内鉄道路線図・明治21年12月

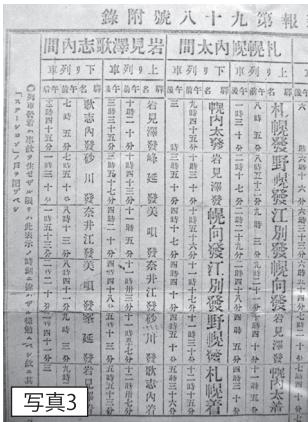
「北海道 鉄道の足跡 ～三笠鉄道村を訪ねて～」

会報・ホームページ委員が調査しました!

特別企画バッケンバーはコチラ



特別企画



北海道炭礦鉄道時刻表1・
明治24年8月



北海道炭礦鉄道時刻表2・
明治24年8月



弁慶号

同鉄道は、幌内炭山の石炭を小樽港に輸送することが主な目的でしたが、それだけでなく、札幌付近への物資の輸送という役割も果たし、石狩平野の開拓にも大きく貢献しました。

幌内鉄道の車両やレールなどの材料は、アメリカから船で北海道まで運ばれました。

というのも、北海道開拓使がアメリカからジョセフ・U・クロフォード(1842～1924年)を招き、建築兼土木顧問として鉄道建設の指導に当たってもらったからなのです。

当初、幌内から小樽への石炭の輸送は石狩川の水運を利用するという案が有力でしたが、クロフォードの小樽までは鉄道で運ぶのが有利であるとの意見から、幌内鉄道が生まれるきっかけともなったのです。そしてアメリカ型の鉄道が敷設されていったのです。

蒸気機関車はアメリカ製で、前面に牛馬をはね返すカウキャッチャーという排障器が付いているのが特徴で、明治13年(1880年)から明治22年(1889年)まで合計8両輸入されました。最高速度は時速約48km/hで、価格は現在の価値に換算すると、1両あたり1億5千万円を超えたくらいになります。(写真5参照)

1号機関車は「義経号」、2号機関車は「弁慶号」というように、それぞれ名称が付けられており、義経号は京都市の鉄道博物館、弁慶号はさいたま市の鉄道博物館に現在は保存されています。

各機関車の名称は

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1号 義経(義經) | ～ 源義経より |
| 2号 弁慶(辨慶) | ～ 武藏坊弁慶より |
| 3号 比羅夫 | ～ 阿倍比羅夫より |
| 4号 光圀 | ～ 德川光圀より |
| 5号 信広(信廣) | ～ 武田信広(松前家始祖)より |
| 6号 しづか | ～ 静御前より |

と付けられており、7号・8号は無名でした。

また6号機関車の「しづか号」は小樽市の鉄道博物館に保存されています。

幌内鉄道は、沿線がまだ開発されていなかったと、冬場の雪で運行が難しいものもあり、明治19年度まで毎年赤字でした。その分運賃も新橋・横浜間に比べると割高であったとのことです。

官営であった幌内鉄道はその後、明治22年(1889年)に設立された北海道炭礦鉄道会社に払い下げられ、以後同社が炭鉱の開発と鉄道の敷設を進めました。

幌内鉄道の技術を引き継いだ同炭礦鉄道は、本社を手宮(小樽市)に置き、国産2番目の機関車「大勝号」をはじめ、客車や貨車も多く製造しました。

幌内鉄道が民営化された後(北海道炭礦鉄道となった後)、北海道の開拓を進めるために、明治30年代後半には旭川一名寄間、釧路一帯広間などが開通し、北海道の鉄道網の骨格部分が形作られていきました。

また、明治24年(1891年)に上野一青森間の鉄道が全通し、函館一小樽間の鉄道の敷設が急がれていたところ、明治37年(1904年)に全通し、翌年には北海道炭礦鉄道とつながりました。

この頃は北方のロシアの脅威もあり、兵士や武器を運ぶという目的でも鉄道の敷設が急がれたのです。

民営化され北海道炭礦鉄道となった幌内鉄道ですが、明治39年(1906年)の鉄道国有法により、同年10月に政府に買収され国有化されます。翌年、函館一小樽間の北海道鉄道株式会社も買収され、北海道の鉄道は国有鉄道に一本化されました。

(※動力が人力であつたり森林鉄道などいわゆる軽便鉄道を除く)

明治41年(1908年)の青函連絡船の運航開始、大正10年(1921年)の西和田一根室間の鉄道開通、翌年の鬼志別一稚内間の鉄道開通により、北海道を横断・縦断する鉄道網が整備されました。

その後、昭和初期までに幹線鉄道網が完成し、地方の細部に至るまで鉄道が敷かれていくことになるのです。(写真6,7参照)

特別企画

戦中の混乱期を経て、戦後は日本国有鉄道幌内線（岩見沢—幌内・幾春別間）となった幌内鉄道ですが、明治の北海道の黎明期から石炭をはじめとする多くの資源や物資、多くの人を運んできました。（写真8, 9参照）

戦後の石炭から石油へのエネルギー革命、モータリゼーションの波の影響を受け、次第に利用者も減り、廃止対象となっていました。

ついに日本国有鉄道が北海道旅客鉄道株式会社になってすぐの昭和62年7月12日、さよなら列車とともに廃止となってしまいました。

旧幌内駅跡には三笠鉄道記念館、鉄道車両展示、SL（蒸気機関車）走行施設のある三笠鉄道村が作られ、手宮にある小樽市総合博物館とともに、幌内線の歴史、偉業を今も後世に伝えています。

是非一度足を運んで、北海道で一番最初の鉄道路線、古の鉄道に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

【参考文献・参考資料】

- ・「幌内線史 開拓のいしづえとして」（岩見沢市出版）
- ・三笠鉄道記念館展示室資料

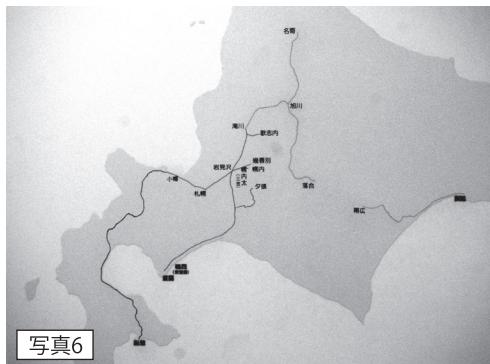


写真6 北海道鉄道路線図・明治38年12月

施設紹介



三笠鉄道村

（写真10, 11参照）

三笠鉄道記念館、鉄道車両展示、SL走行・運転体験エリア（幌内ゾーン）とクロフォード公園（三笠ゾーン）に大きく分かれています。

三笠鉄道村の特徴は、SL機関士体験ということで本物のSL（S-304号）の運転を体験できるところです。（※日本で唯一、石炭と蒸気を使用した運転体験ができます!!）

☆運転体験（三笠鉄道村ホームページより申込み）

- ・対象年齢 18歳以上
- ・体験実施日 毎年ゴールデンウィークイベント後から10月15日までの土日祝日（※7月下旬から8月中旬までの夏休み期間中は休館日を除く毎日）

▶体験の流れ

- ① 申込み → ② 学科講習（初回のみ、三笠鉄道記念館で実施）→
 - ③ 証明書交付（講習終了証明書）→ ④ 運転体験
- （※機関士制服は貸与、機関士帽は要購入）

▶講習料（初回のみ）

15,000円（機関士帽代込み）

▶運転体験料（1回毎の料金）

1回～10回	7,000円
11回～30回	6,000円
31回～50回	5,000円
51回～	4,000円

▶運転区間 三笠鉄道村内の幌内鉄道を1往復

※回数に応じてオリジナル腕章が交付されます。

11回で機関士見習

31回で補助機関士

51回で機関士

※SL S-304号

昭和14年（1939年）、当時の日本製鐵輪西製鐵所向けに造られた産業用蒸気機関車です。

遠くは九州から運転体験に来る常連さんもいるようです。冬期間は休館となりますので、是非一度は訪れてみてください。

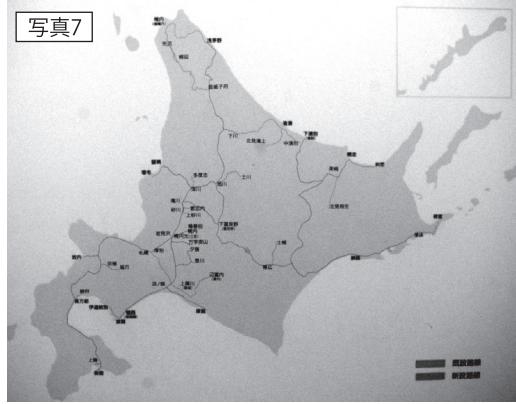
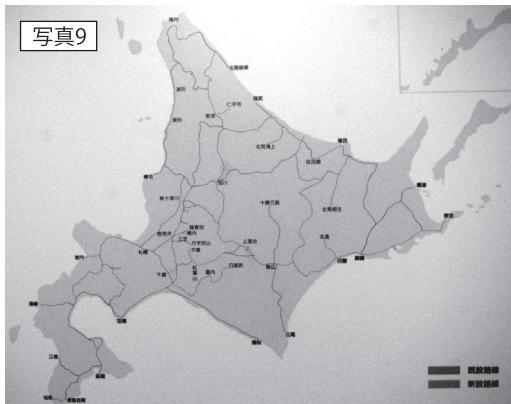


写真10 三笠鉄道記念館

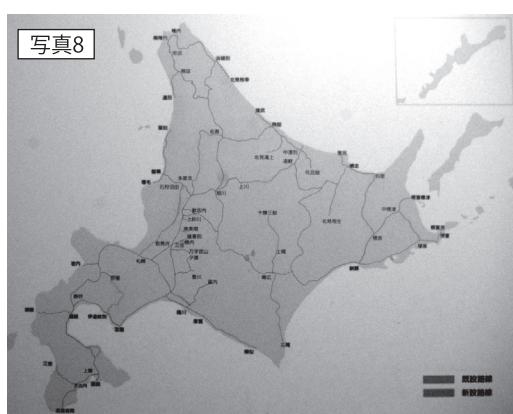


写真11 SL・S-304号

特別企画



北海道鉄道路線図・昭和56年10月



【三笠鉄道記念館】(幌内ゾーン)

所 在 地 〒068-2145

北海道三笠市幌内町2丁目287

電 話 番 号 01267-3-1123

開 館 時 間 午前9時～午後5時

休 館 日 毎週月曜日

(月曜日が祝日の場合はその翌平日)

冬 期 間 (10/16～4/15)

入 館 料 金 一般 530円 (団体430円)
小中学生 210円 (団体160円)

※団体は20名以上

乗 車 料 金 SL・S-304号 1回300円

ミニ新幹線 1回300円

※運転体験ではありません

運 行 日 時 SL 土日祝日

10:00始発～16:00最終30分毎発車

(12:30のみ運行なし)

ミニ新幹線 土日祝日 SLと同時間内 隨時運行

※SL・ミニ新幹線とも7月下旬から

8月中旬までの夏休み期間中は休館日を

除く毎日運行

交 通 手 段 • バス/JR岩見沢駅より 所要時間約40分

中央バス 幾春別町行 乗車

「市民会館」下車 乗換え

市営バス 幌内線 乗車

「三笠鉄道記念館」下車

• 車／道央道「三笠インターチェンジ」より

幌内方面へ約15分

【クロフォード公園】(三笠ゾーン) (写真12参照)

所 在 地 〒068-2145 北海道三笠市本町971-1

※旧三笠駅跡、鉄道車両展示あり

※トロッコ鉄道体験ができます。

運 行 期 間 4月下旬から10月下旬まで

運 休 日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は
その翌平日)

冬 期 間

※開館日、運行日等は都合により変わ
る場合があります。



クロフォード公園